

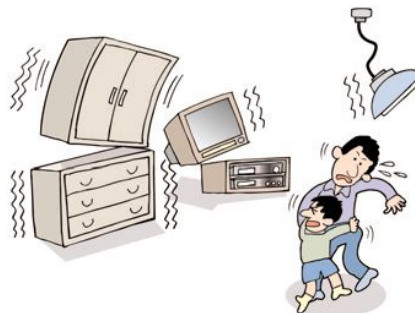
災害から命を守る

災害の怖さを知ろう(地震・室内編)②

まず知ろう

●大地震では、テレビが飛び、タンスがあなたの上に倒れかかってきます

阪神・淡路大震災でも、多くの方が倒れてきた家具の下敷きになって、尊い命を失ったり、大ケガをしました。また、テレビや家具が散乱し、逃げ遅れた人たちもいます。



●窓ガラスや食器は、鋭い破片を床一面に広げ、あなたの行く手をはばみます

素足で歩ける状態ではありません。スリッパやズック靴などをいつでも使えるように置いておきましょう。



●「生き残ってから」のことよりも、「生き残るため/死なないための努力」を先に行いましょう

『緊急地震速報*』を見聞きしても、家の中に安全な場所がなければどうしようもありません。家の中や職場など、まずは、身近な空間の安全点検と必要な対策が最優先です。

*『緊急地震速報』については、裏表紙にも掲載しています。

自分や家族の安全を守るために

- 家具の固定で命を守りましょう。また、万が一倒れてきても安全なように、家具の向きを変更しましょう。
- 寝室や居間や子ども部屋など、お子さんやお年寄りのいる部屋の安全が大切です。まず寝ている間の安全を確保しましょう。
- 出口は複数確保して、地震で建物が歪んでも外に出られるようにしておきましょう。
- 基本的に、『重いものは上に置かない』、『家具は背が低いものを』、『家具や照明はできるだけ作りつけに』しましょう。
- 大きな揺れになると、家具を固定していても、扉が開いたり、引き出しが飛び出したりします。耐震ロック(耐震ラッチ)などをつけましょう。また、ベルトや棧などで食器や本が飛び出さないように工夫しましょう。
- 窓ガラスを強化ガラスに替えたり、食器棚の扉など、家の中のガラス類にフィルムを貼ったりしましょう。
- テレビやパソコンなどには、耐震固定ベルトや耐震マットが有効です。
- 自宅だけでなく、オフィスや学校でも、同じように対策をしておきましょう。

※参考：「わが家の地震対策」静岡県：<http://www.taishinnavi.pref.shizuoka.jp/antearthquake/furniture/index.html>

備えよう

●家具の固定や配置の見直しで「安全空間」を！

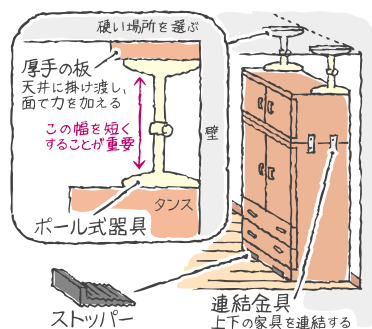
家庭内に「安全空間」をつかっておくことで、災害時に安心して暮らせます。「大地震では、家具は必ず倒れるもの」と考えて、お部屋の総点検を行いましょう。その際にチェック・実践すべき点は次の5つです。まずは**できる部分から**はじめましょう。

- 家具は、倒れる向きを考えて配置しましょう
- 家具部屋を作りましょう（寝室や居間として使用しない）
- **作りつけの家具**を使いましょう
- 寝室には家具を置かないようにしましょう
- 家具を置く場合は、**固定することで転倒防止をはかり**ましょう

家具の固定方法にはいろいろありますが、正しいやり方で行わなければ効果は期待できません。

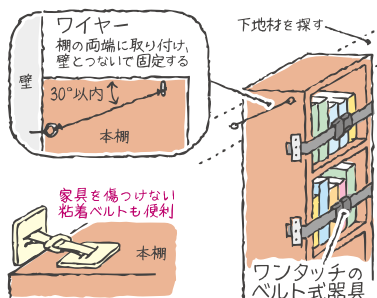
タンスの固定の例

ポール式器具はタンスの奥の方（壁側）で、天井や家具の硬いところに取り付けます。また、天井側だけでなく床の側もストッパーなどで固定し、上下に分かれている家具は連結しておきましょう。



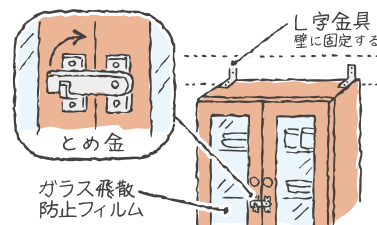
本棚の固定の例

壁の中の硬い所や下地材のあるところを探して、金具やワイヤーなどで固定します。また、本棚の端の硬い部分にヒモやベルトなどを取り付けて中の本が飛び出さないようにしておきましょう。



食器棚の固定の例

壁の中の硬い所や下地材のあるところを探して、金具などで固定します。金具は側板や棧など、家具の丈夫なところに取り付けます。また、観音扉が開かないようにとめ金をつけたり、ガラス飛散防止フィルムを貼ったりして、ガラスや食器が凶器にならないよう工夫しましょう。



引越しや模様替え

引越しやお部屋の模様替えをする時が、お部屋の総点検のチャンスです。寝具と家具の向きをチェックしたり、家具の下にストッパーを敷いたり、テレビやパソコンの下に耐震マットを敷くなどの**ひと工夫**を忘れずに行いましょう。

